

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874003326		
法人名	医療法人 恵風会		
事業所名	ケアホームみどり		
所在地	兵庫県姫路市西今宿5丁目3番8号		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>高岡病院、けいふう心療クリニックを母体とし、協力医療機関や併設施設と連携を図っている。事業所の理念である「入居者の方々に安らぎのある生活をそれが私たちの願いです」に基づき、入居者主体、自立支援、その人らしい生活を送ることができるように、質の高いケアを目指している。今年度は年間目標として 個々の入居者の能力を見極め、個別ケアを充実させる。 家族との繋がりを感ずることが出来る機会を作る。 地域の方々と交流を深める。を掲げ、様々な取り組みを行っている。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示し、毎朝唱和し、入居者本位、自立支援を心掛け、その人に合った対応が出来るように職員間で話し合っている。また、月間目標を決め会議で評価し、日々の実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度、入居者と職員が清掃活動に参加することも定着し、地域住民のボランティアも月1回あり、さわやか会の協力の下、地域の行事に参加したり、子供たちとの交流も持っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて様々な議題を取り上げ、情報提供や意見交換などを行っている。そのため、地域住民の方も認知症について理解しようとしてくださっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は老人会会員、入居者、家族、地域包括支援センター職員、施設職員などをメンバーとして構成し、2ヶ月に1回定期開催を行っている。様々な議題を取り上げ、情報提供や意見交換などを行い、効果的な話し合いの場になっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会において、介護保険課の職員と情報交換を行い、介護保険上疑問点や判らないときは担当職員に聞き解決するようにしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や行動制限のマニュアルを作成し、勉強会を通じて知識を深め、日々のケアに取り組んでいる。玄関は施錠しているが、鍵をかけることへの弊害を認識し、可能な限り開放を心掛けている。		
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、倫理及び法令遵守、メンタルヘルスケアなどの勉強会を開催している。また、法人の接遇委員会に参加し、接遇を通じて毎月話し合いを行っている。必要があれば業務の見直しを行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、日常生活自立支援事業、成年後見制度などの勉強会を開催している。利用されている方はないが、玄関に成年後見制度について掲示し、必要があれば支援する体制にしている。		
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居時には利用者や家族の方と必ず話し合う機会を設け、理解や納得を得られるようにしている。改定時も説明文書を送付し、理解や納得を得ている。		
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、茶話会や家族交流会を開催し、気軽に相談や苦情が話せるようにしている。運営推進会議では第三者評価の結果や要望などを話し合っている。		
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、目標や評価、問題点や疑問点などについて話し合い、解決するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の満足度の違いはあると思うが、代表者は管理職や職員などについて、個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、向上心を持って働けるよう、昇給や賞与などに反映されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内及び法人内で勉強会を開催し、学べる機会を多く持っている。外部研修にも参加でき、参加後は報告会を行い、情報の共有を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム連絡会の研修会に参加し、他施設の職員と意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時は本人が同席していないことが多いため、面接時は本人にも同席を依頼し、不安や要望を傾聴し、内容をシートに明記している。そのため職員全体が把握しやすく、統一したケアが出来るように関係作りに努めている。		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に家族の方に困っていることや不安な思いが聞きとれるようにしている。随時、相談者や担当のケアマネジャーに連絡し、不安や要望、現状などを尋ね、関係作りに努めている。		
17	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みがあれば、随時、相談者に連絡し現状の把握に努め、必要な他のサービス利用や担当ケアマネジャーに相談するなど助言している。また、担当ケアマネジャーに連絡し、相談者の思いを伝えるように努めている。		
18	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	状況把握に努め、入居者についての検討会を週に1回実施し、職員の対応方法を統一出来るようにしている。また、忘れることに対して不安がある方には、面会時に家族にメッセージや言葉の記入をいただき、家族への思いが薄れないように工夫している。		
19	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回茶話会を開催し、一緒におやつ作りを行い談話の時間を設けている。また、面会時には暮らしぶりなどを報告し、必要に応じて外出などの機会を依頼し、協力を得ている。		
20	(11) 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での近所の友人や同僚の方の面会、外出、手紙のやり取りなど、本人の希望により、随時対応している。また、家族の方にもその旨を連絡をしている。馴染みの場所については外出などを利用し、立ち寄れるように心掛けている。		
21	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	シートを活用し、個々の能力を活かしながら、入居者間で良い関係が作れるように努めている。また、必要などときには職員が間に入り、関係作りに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも連絡して欲しいことを伝え、必要時は家族へ情報提供に努めている。また、可能な方には家族の方の承諾を得て、面会やお見舞いを実施している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを活用し、家族からの情報などから思いを汲み取り、その人らしく暮らせるようにケアプランへ反映させている。また、毎週検討会を行い、少しの気づきについても話し合っている。		
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録や個別シートを活用したり、家族の方々に生活歴シートなどの記入を依頼し、今までの生活歴や馴染みの暮らし方など把握に努めている。また、馴染みの物を持ち込むこともでき、環境作りにも努めている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状態について、センター方式のシートを活用し把握するようにしている。また、家族の方に、その都度確認をしている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週検討会を実施している。また、課題が出れば申し送りの際に話し合いを行っている。ケアプラン会議には本人や家族の参加を勧め、意見やアイデアを活用している。		
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に記入し、申し送りを実施している。また、健康チェック表でケアプランの実践の有無をチェックしたり、検討会で気づきなどを話し合っている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である高岡病院やけいふう心療クリニック、歯科、併設の老人保健施設、通所リハビリテーション事業所を活用し、受診や行事参加、リハビリなど必要に応じた支援を行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの行事に参加したり、毎月地域の老人クラブの方々と交流する機会を作り、心身の力を発揮し、楽しむことができるように支援している。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方と相談し、入居前からのかかりつけ医へ継続してもらうように相談し、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時の対応は家族の方に意向を確認しながら実施している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、日々の健康管理に努めている。また、定期健診やインフルエンザの予防接種なども計画的に実施している。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は介護サマリーを活用し、病院関係者への情報提供に努めている。また、病院へお見舞いに行ったり、家族の方や病院の相談員と情報交換を行いながら相談に努めている。		
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面接時に医療連携体制加算について説明し、具体的な事例を話し同意を得ている。また、職員間で勉強会を行い、看取りの重要性や意義について理解し、意識の統一を図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成し、職員に周知している。また、施設内で人形を使用した心肺蘇生法やAEDの使用法、吸引ノズルの使用方法など定期的に勉強会を行っている。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人と協力し月に1度は昼間、夜間を想定した避難訓練を入居者と共に実施している。また、災害時のマニュアルや緊急連絡網も整備され、夜間は法人の男性職員の当直が判るようにしている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の情報を職員同士で共有し、個人の尊厳を大切にしている。また、法人の接遇委員会に所属し、毎月目標を決め、意識の向上に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のシートを活用し、検討会を行い、個々の思いや希望などについて把握に努め、日々の生活の中で支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の行事や日程表は作成せず、日々の流れの中でそれぞれに合わせた役割もってもらい、できること・やりたいことをしてもらえるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容や美容は本人の意向に沿えるよう、近くの美容院や法人内の理髪室を利用している。外出時には化粧を勧めたり、外出着と一緒に選んでいる。買物時には、希望の化粧品や衣類などが購入出来るように支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は一緒に朝食や週4回の昼食を調理している。入居者と献立を考え、買物・準備・調理などを行っている。それぞれの得意な部分を一緒に行えるよう配慮し、できることをしてもらっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を考え、摂取量は健康チェック表に記入している。摂取困難なときは、食べやすい大きさに切ったり、トロメリンを使用している。水分量に関しては入浴後や外出時、発熱時などは特に気を付け、確保出来るように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声掛けを行い、1日1回は職員と一緒にケアを行っている。また、必要な方には併設の歯科から週1回、口腔ケアの往診があり、個々の状態に合わせた対応について情報交換を行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄の回数や時間を把握し、状態に応じてトイレ誘導の声掛けや見守りを行っている。足の不自由な方には居室にポータブルトイレを設置し、自立に向けた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じ、同一の対応を行うのではなく、食事面を改善したり、運動をしたりと、薬に頼らないようにする支援を心掛けている。毎日排便確認を行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿えるよう、午後と就寝前に分けて、一人ずつ2日に1回は入浴が出来るように支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の意向を尊重しながら、日中の活動を通じて生活のリズムを支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行い理解を深めるようにしている。また、入居者1人ひとりの薬の目的や用法、用量などを把握し、変更時は申し送りを徹底し、状態の変化等の観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、個々の状態の把握を行い、調理、洗い物、洗濯物干しやたたみなど、その日の状態に合わせて支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	3月より近くにマックスバリューや薬局がオープンし、日々の散歩、買物は常時行えるようになった。車を利用し週4回食材や日用品の買物にも行っている。また、年に3回バス旅行に行ったり、外食も楽しめるように配慮している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で預かり、希望される方は家族の方と相談し、別に個人で管理してもらっている。また、買物時は財布を手渡し、支払いなどの機会を持つように支援している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて友人や家族に年賀状や書中見舞い、手紙などでやり取りが出来るように支援している。また、電話の取り次ぎや代行を行っている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感が感じられる飾り付けやカレンダーなどを一緒に作り、飾っている。また、季節の花や観葉植物を飾り、居心地よく過ごせるように、明るく落ち着いた感じにしている。		
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢で過ごせる場所、少人数で過ごせる場所を設け、居場所の工夫をしている。食事の席は仲の良い方と配置するようにしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や、小物などを持ち込んでいただけるよう、家族の方と相談をしている。また、家族との写真や手作りの飾り物を飾り、心和むように工夫している。		
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じて、適宜、椅子の位置やトイレ入り口に看板を設置、居室入り口に表札をかけるなど行っている。また、職員同士の気づきも取り入れ、自立した生活が送れるように工夫している。		